

令和7年度第2回御殿場市総合教育会議

日時

令和7年11月28日（金）午後1時30分から午後3時00分まで

場所

御殿場市役所東館201～203会議室

出席者

御殿場市長	勝又正美	教育長	勝亦重夫
教育委員	勝又英和	教育委員	勝又俊行（欠席）
教育委員	萱沼泉	教育委員	長田光男
教育委員	杉山ゆかり		

陪席者

教育部長	教育総務課長
教育施設課長	学校教育課長
社会教育課長	図書館調整監
学校給食課長	
西学校給食センター所長兼高根学校給食センター所長	
教育施設課技監	学校教育課主席指導主事
学校教育課課長補佐	学校教育課指導主事
社会教育課課長補佐	社会教育課課長補佐

事務局

教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課主事	教育総務課主事

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項 第2期御殿場市教育振興基本計画の主要施策に対する、来年度以降を見据えた重点事業の方向性について
- 5 閉会

1　開会

教育総務課長

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。定刻より少し早いですが、ただ今から令和7年度第2回総合教育会議を開催いたします。

全体の進行は私、教育総務課長が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

会議は次第に沿って進めてまいります。それでは、次第の2「市長挨拶」、市長お願ひいたします。

2 市長挨拶

市長

皆さん、こんにちは。

令和7年度第2回総合教育会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。本日の会議は、教育委員の皆さんのお意見をまず聞き、様々なやり取りをすることに意義があると思い、下調べはあまりしておりません。皆さんの生の声に対し、意見交換をしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

現在、学校や子どもたちも、様々な課題を抱えています。中学においては部活動の地域移行に関する課題、コミュニティ・スクール（以下「CS」という。）による地域との関わり、ICTの課題、そして先生の働き方改革。これらが背景にありますが、今、様々な変革をしていくべき時であると感じております。

今日は皆さんから色々な意見をお聞きし、お互いに活発な意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 教育長挨拶

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、次第の3「教育長挨拶」、教育長お願ひいたします。

教育長

皆さんこんにちは。早いもので、今年も残すところ僅かとなりました。インフルエンザの流行が早く、今週は多数の学級閉鎖や学年閉鎖が発生しており、警戒しているところです。

年度も終盤に差し掛かり、4月から積み重ねてきたものが花を開き、実を結ぶ時期です。教育委員の皆様には学校現場に足を運んでいただき、子どもたちが本当に素直で、一生懸命に勉強や活動に励んでいる姿を見ていただいていると思います。地域や家庭が、子どもたちの健全な育成に寄与してくれていると実感しています。

先程市長からも話がありましたが、学校現場には様々な課題があります。部活動の地域連携、小学校での教科担任制、あるいは教員不足といった、制度的・構造的な課題については、中期・長期的な姿勢を持ちながらも、早急に対応を進めていかなければならぬと考えております。

何よりも、子どもたちの学びの充実と、子どもたちにとっての最善を大切にして対応していきたいと考えております。

教職員の待遇改善について、今年6月に制度改正がありました。現在、教職員の調整額は4%プラスされていますが、これを毎年1%ずつ、10%を目指して加算していくという方針があります。また、学級担任の手当を新たに設けることなど、給与面での改善も示されています。

さらに、働き方改革を加速させるため、業務管理や健康確保措置の実施計画の策定が自治体に義務付けられました。この計画については、年に一度報告していく制度になっています。

本日の会議は、教育委員会として重点的に取り組みたい施策について、市長と協議を行う大切な機会です。限られた時間ではございますが、充実したものになることを祈念し、挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

4 協議事項

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速ですが、4「協議事項」に移りたいと思います。

これからのお進みにつきましては、勝又市長よりよろしくお願ひいたします。

市長

ここからは私の方で進行させていただきます。

それでは、協議件目の『第2期御殿場市教育振興基本計画の「主要施策」に対する来年度以降を見据えた重点事業の方向性について』を事務局より説明願います。

教育総務課長

本日の協議件目につきまして、簡単に御説明いたします。

現在の第2期教育振興基本計画は、本市の基本的な教育施策の方向性を定めているものでございますが、本年度で計画期間を終えることとなっており、来年度からは第3期計画への移行を予定しております。

第3期計画につきましては、第1回の総合教育会議で協議いただきました、新しい教育大綱の内容を踏まえて、第2期計画をベースに、これまでの課題や時代に即した視点を加えたものとなる予定です。

つきましては、今回の会議では、策定中の御殿場市第3期教育振興基本計画に代わり、第2期の計画に基づき、これを実現するための重点事業を中心に意見交換をお願いするものです。

今回、お手元に資料として、第2期計画の概要版を配布しておりますが、その8ページと9ページに政策の体系を示しておりますので御覧ください。

そのページで「主要施策」として掲げているものの中で、令和8年度以降に重点的に進めたいと考えている事業をオレンジ色の表紙の資料として御提示しております。

この場での議論が教育の充実や施策の実現につながるきっかけにもなりますので、委員の皆様におかれましては、資料に留まることなく、教育に関する施策や取組について広く自由な御意見をいただければと思います。

以上、説明いたします。

市長

第2期の教育振興基本計画が今年度で終了し、来年度から第3期計画へ移行するということです。ちょうど今年度の検証や、来年度に向けた検証を行う時期であり、非常に大事な時だと思います。皆さんから色々な意見を伺えればと思っています。

テーマは教育委員の皆さんで決めていただいていることですので、順番に、一人ずつお願ひしたいと思います。それでは、杉山委員から、御意見をお願いします。

杉山委員

私は夢創造事業について、お話をさせていただきます。

夢創造事業が提供している「本物に触れる機会」は、子どもたちにとって非常に価値の高い取組だと感じています。子どもの時に、芸術や文化、スポーツなどの各分野の第一線で活躍される方々と直接話す経験ができるというのは、人生を変え得る大きなきっかけにもなると思っています。教科書や映像では得られないような生きた学びを体験することは、子どもたちにとって一生の財産となり、夢を描くヒントになるのではないかでしょうか。

先日、私の子どもが通う小学校でも切り絵教室が行われ、興奮して先生の技術の素晴らしさを教えてくれました。「こんな仕事もあるんだ」とワクワクしていた姿がとても印象的でした。

また、本年度の事業計画ですごく良いなと感じたのが、朝日小学校の地元出身のプロランナーである吉田響選手を招いた長距離教室です。吉田選手と一緒に走っている子どもたちの姿は、写真で見てもすごく生き生きとして笑顔が溢れていました。地元出身の方だからこそ、子どもたちにより強く響く体験になったのではないかと感じています。

夢創造事業は、単に楽しかったという思い出だけではなく、「頑張れば自分ももしかしたらできるかもしれない」という自己肯定感の向上や、「努力すれば夢に近づける」という挑戦の芽生えなど、子どもたちの心の成長にも繋がっているように思います。

現在、各学校独自に事業を計画しているということですが、これからどんなことに挑戦してみたいか等、子どもたちの意見も取り入れながら進めてみても良いのではないかと感じました。

子どもたちの未来への投資として、夢創造事業の充実と予算の拡充をお願いしたいと思います。以上です。

市長

ありがとうございました。ただいま夢創造事業の充実について御意見をいただきました。

この夢創造事業というのは、議会の中でもよく質問にあがることで、議員の皆さんにとってもインパクトがあり良い事業であると思っています。私も現在年間30回程度講演依頼を受けており、その中でもこの事業についての話もしております。

私自身、宇宙飛行士の山崎直子さんやマラソンランナーの野口みずきさんが本事業でいらっしゃったときに生で聞いていましたが、子どもたちの反応が本当に素晴らしかったです。宇宙に行った山崎さんが、最終的に地球の素晴らしさを知ったという話や、オリンピックで金メダルを取った野口さんが、ゴールが近づいた時に「これまでの苦労が全て終わってしまう、まだ終わりたくない」と感じたという話など、子どもたちにとって非常に響くエピソードでした。

今、憧れや夢を持てない時代になっているからこそ、こういった事業はもっと予算をつけても良いのではと個人的にはいつも思っています。子どもたちの成長には、やはり夢を持っていることが大事だと思います。

教育長はどのように考えますか？

教育長

今、世の中は様々な情報があふれ、動画を見れば色々なものに触れられる時代になりましたが、杉山委員がおっしゃったように、本物に触れる感動というのはやはり何物にも代えがたいものがあると思っています。また、子どもたちの意見も取り入れるということも大事だと思います。

私も現場にいた頃、この事業が始まった時からずっと見ておりましたが、有名人の方や地元に根付いている方を呼ぶことができる、自由な予算の使い方ができるというのはとてもありがたいことだと感じていました。

市長

ありがとうございます。私はセラピードッグについての講演をこれまで何十回も行なったことがあります。明日にも殺処分寸前だった犬が人を助けるセラピードッグになれるという話は、子どもたちの将来にとっても繋がるものがあります。

このセラピードッグの講演は、これまで10校程回りましたが、その日は管理職が朝から午後の講演のために準備してくれました。これは大げさではなく、みんな子どもたちが感動するのを楽しみにやっているのです。非常に素晴らしいことだと思います。

夢創造事業について、他の委員から自由に感想でも、これからやってほしいことでも何かありますか？

長田委員

夢創造事業について、少し補足をさせてください。

実は私も朝日小学校の夢創造事業に参加させてもらいました。吉田選手とは同じ地区で付き合いもありますので少し話をしたのですが、その時にマネージャーから一言、「色々と協力していただけないとありがたいんですよね」という話をされました。もし機会があれば、市の方からも何か協力する形を考えていただけると助かります。

市長

私のところに正式な協力依頼というのはまだ来ていないです。

吉田選手が箱根駅伝で活躍した年に賀詞交歓会に来てくれたことがありました。この会に前に表敬訪問に来てくれて、そのときに賀詞交歓会に来てくれたら本当にみんな喜ぶよと言ったら、本人が考えてサプライズで来てくれました。産業界のトップら300人程が参加していましたが、これには大人達が本当に感動していました。そういうことがありましたから、私も彼がプロになるにあたって市がどう応援できるかを考えました。スポンサーがいる中で、個人契約の形が良いのか分かりませんでしたし、吉田選手はオリンピックを目指し最終的な出場資格(GM)をまだ取れていないという状況もありましたので、なかなか協力に至らなかった。しかし、応援すること自体は素晴らしいことですので、どのような形ができるか今考えているところです。オリンピック出場が現実になった際には応援協力は必然だと思います。

私は常々「御殿場らしい人づくり」と申し上げておりますが、こういった人づくりには、やはりもっとお金をかけて良いと思っています。御殿場市の教育予算は、産業とか経済、観光に比べるとシェアが低いです。例えば、富士山Gコインは1億円単位で動いているのに、教育委員会は10万円20万円のレベルで動いている気がします。もっと人作りにお金をかけて良いと私は思います。

夢創造事業ですから、夢を作り出すということに焦点を当て、憧れを持ってもらう事業を行うことは大事だと思います。

それでは次に長田委員、よろしくお願ひします。

長田委員

10月30日の新聞に、小中学校の不登校児童が全国で過去最多を更新したという記事が載りました。御殿場市も増加傾向にあり、教育支援センターが開所したことは大変ありがとうございます。

しかし、登校はできるけれど教室に入れない子どもには、学校内での見守りと支援が求められます。

先月、御殿場小学校で行われた研究発表会で、鳴門教育大学の教授の講演を聞きまし

た。教授は、幼少期 0 歳から 15 歳の教育は、人生の幸福度を高めるための 5 年 10 年 20 年後の先行投資であり、愛着形成がその子の社会性を決める、という話をされました。

共働きが多い現代社会において、子どもを社会全体で支えていく取組が不可欠であり、それこそが CS に求められていることです。

CS の運営では、学校運営協議会と並行して、支援活動を実行する地域学校協働本部が大切です。この協働本部を推進するためのスクールコーディネーターの確保と活動推進に、十分な予算をよろしくお願ひいたします。

市長

ありがとうございました。非常に大きな問題について御意見をいただきました。このスクールコーディネーターについて、説明をお願いします。

社会教育課

地域学校協働活動を推進するためのコーディネーター、正式には「地域学校協働活動推進員」というものを、来年度 4 月から各 CS に最大 2 名まで配置する体制を現在作っています。ほぼ全ての学校について、1 名から 2 名のコーディネーターの方が決まっている状況にあります。年明けからは、学校も交えて来年度以降の体制をどうしていくか打ち合わせ、令和 8 年度に委嘱を行う予定です。

市長

来年度の予算に入っており、実際に稼働していくということですね。

学校サイドとして CS に期待していることは何ですか？

学校教育課

これまで学校は教職員で回し、PTA が助けるという体制がありました。しかし、PTA 活動の形も変わってきておりますので、地域の助けがなければ学校運営がままならなくなっている社会的状況があります。今後は、地域一体となって子どもたちを総掛かりで育てていくという観点に立って、地域の方々に様々な活動に入っていただき、一緒に育てていくことを期待しております。

市長

不登校の問題と、今の CS との繋がりについてはどう感じていますか？

教育長

不登校は全国的にも増加し、御殿場も同じ状況です。

不登校対策として、教育支援センターを設置しましたが、場所的に住所によっては交通の便が悪いという課題があります。来年度からは、手始めとして一つの小学校で校内に支援教室を設置する取組を進めていきます。最終的には全校に拡大したいと考えています。

CSについては、地域の力を借りていくという点で重要です。地域の方々には、不登校の子どもたちにも関わっていただき、様々な年代の方々との関わりを通して、気持ちの部分でも成長を促していくことを願っています。

市長

今、教育長が言われたように、学校ごとの校内教育支援センターのような体制を作っていくことは非常に素晴らしい。全学校にこの体制を設けるのは、県内でもおそらく画期的なことだと思います。学校へ来られるのに通常のクラスに行けない子どもたちに対し見守りやケアをしていく、ということが非常に重要です。

教育支援センターに朝から夕方まで行ける子は、勉強もやる気があるし規則正しい生活ができている子だと思います。家から出られない子に対しては、また違う策を考えいかねばならないのですが、不登校の理由は本当にまちまちです。企業でも市役所でも職場へ来ることができない人は多数います。そういう時代です。不自由なく何でも簡単に手に入ることに慣れてしまった人が、集団生活の中では自分の自由が利かない、意見が通らないということだけで崩れてしまう。そういう人達に対し、CSが十分に機能して、地域の人たちと関わりながら気持ちが少しずつ変わってくれたら、これが最高の形だと思います。そう簡単にいくことではないかと思いますが、現在のところは学校の中で見守りや応援をしていく体制の充実が必要だと思っております。

それでは、勝又英和委員、よろしくお願いします。

勝又委員

本来は教育振興基本計画の重点事業のお話をすべきですが、あえてこの計画に載っていないことでお話しさせていただきます。

9月の市議会定例会で、地域防犯活動について質問がありました。その答弁がくらしの安全課の方でされたのですが、なぜ学校関係なのに教育委員会で答弁しないのかと疑問を持ちました。

国の中の基本方針では、学校側が責任を持つのは子どもたちが学校の敷地内に入ってるからです。登下校の安全は、教育委員会は基本的には関係ない、というのが国の方針のようです。

しかし、私は以前 PTA で、かけこみ 110 番の家の更新や通学路の確認などを行っていました。今後、CS が充実してくると、見守り隊の活動も活発になると思います。CS そのものに教育委員会が関わっている以上、見守り隊についても、ある程度教育委員会が関与されるべきではないでしょうか。

そこで、国の方針とは別ですが、「御殿場スタイル」として、教育費の中に、子どもたちの安全や防犯にかかる費用、防犯カメラ設置補助の拡充などを計上し、登下校の見守り活動に積極的に参加すべきだと提案します。

市長

鋭い切り口ありがとうございました。行政はよく縦割だという話がありますが、福祉と教育の境など、正直、役所の仕事全体に壁があることは感じています。やむを得ないところはありますが、結局「子ども」というところが共通部分となっており、CS が進んでいく中で、「教育はここまで、ここから向こうは違う部署」とは言っていられなくなる。子どもたちは弱者ですので、何かあったらという責任論が出やすい。通学路だったり土日の部活動だったりは学校が責任を取るべきではない、という意識が教育委員会の側に強くあるのかな、と正直感じております。

ただ、CS で地域との関わりが増す中では、通学路の安全を無視すべきではないという意見に同意します。

防犯カメラについては、市は現在、補助金を来年度 5 倍、10 倍に増額する方向で動いており、市内全域の防犯強化を進めています。これまで区長さん達も把握されておらず、あまり申請がありませんでしたが、これからどんどん増えてくるかと思います。防犯カメラは学校の周囲に限らず、市内全域に犯罪の抑止力として広げたいと思っていますが、反対意見としてプライバシーの問題を唱える方もいらっしゃいます。プライバシーもありますが、これは子どもの安全とは別問題だと思っています。

地域連携が始まる中で、子どもの安全について、かけこみ 110 番の家だとか色々とありますが、その辺りはどうですか？

社会教育課長

かけこみ 110 番の家は社会教育課が担当でして、2 年に 1 回更新しています。先日の定例教育委員会でも報告いたしましたが、860 軒程が登録されておりますが、時代の変化で昼間留守にされている家庭が増えたことや、PR 不足もあって地域の方に忘れられてきているのが課題です。登録家庭内での代替わりもあることから、地域との連携も含めて体制の見直しを検討する段階にあると考えております。来年度以降、どのように進展させていくか見極めながら事業を進めていければと思います。

市長

かけこみ 110 番の家もありますが、現在、お年寄りや子どもたちへの様々な見守り隊のネットワークができます。郵便局の配達員やマックスバリュのスタッフ、自衛隊のランナー等です。「子ども」をキーワードとして、ここにぜひ、教育委員会が子どもを守る立場で積極的に入っていって欲しいと思います。

学校教育課

教育委員会として、通学路の点検など、警察や道路管理者と一緒にになって行っており、決して関わっていないわけではありません。

また、ある小学校の CS では、登下校の見守りが PTA だけでは不安があるという声を受けて学校運営委員さんに働きかけたところ、実際に地域の方々が動き出し、見守り体制を学校独自で作るという取組も始まっています。

登下校の責任は保護者に持っていただくのが大原則ですが、子どもの安全を守るために橋渡し役、繋ぎ役は教育委員会が果たすべきところだと考えております。

それから防犯カメラについてですが、区長会の方から設置にあたっては学校へ直接相談がありまして、通学路上で安全が確保されていない箇所を確認し、学校長が区長会にも参加して設置をお願いしている状況であります。そして防犯カメラの設置状況は、くらしの安全課で把握していただくという形で各課と連携して進めております。

勝又委員

防犯カメラについて補足させてください。

昨年、区で防犯カメラの設置を検討した際、設置費用は 50% 補助が出ると言われたのですが、維持費が大きなネックになりました。NTT に電信柱の使用料を尋ねたら、年間で万単位の使用料を請求されました。また、電気代も、防犯灯は月に 100 円台なのに、カメラは 24 時間繋ぎっぱなしでその 10 倍の電気料がかかってしまうそうです。維持費が区の負担になってしまふということで、防犯カメラの設置は断念しました。

防犯カメラは本当に有効です。このため、私は自宅に 4 台通学路側に向けて設置していますが、1 年も経たないうちに警察が絡む事案が 3 件あり、防犯カメラのおかげで全てナンバーが分かって解決しました。ぜひ、維持費も含めた財政支援を検討いただき、通学路への防犯カメラ設置を進めてもらうようにお願いします。

市長

ありがとうございました。安全安心は責務です。御指摘のあった維持費の問題、これについてはまた検討課題とさせていただきます。やるべきことだと思っています。

それでは最後に、萱沼委員からお願ひいたします。

萱沼委員

CS の展開について、意見と提案をさせていただきます。

御殿場市では令和 2 年に規則が成立し、令和 7 年 5 月には全ての小中学校で CS が完全設置されることになります。CS によって、学校という単位から、地域を含めた教育環境が確立され、行政が責任を持って児童生徒の教育環境を充実させるスタートを切ったと感じています。

しかし、現在の規則を見ると、学校側が計画や経営方針をまとめ、協議会のメンバーは「意見を述べる」という諮問会のような格好になっています。このままだと、活動が形式的なところで留まってしまうのではないかという心配があります。また、学校側が中心になって動かすとなると、教員の働き方改革に逆行することも考えなければならない。また、地域総がかりで育てるという観点から、それで良いのかと疑問に思います。

もう一つ、この CS の活動自体や組織について、市民や地域住民に対して広く知らしめるための広報活動が非常に重要だと考えます。

市長

ありがとうございました。CS について、非常に重要な切り口で御意見をいただきました。

確かに、CS が関係者の中でしか知られていないというのは現状だと思います。学校関係者や学校に関わった人、区長も関わった人しか活動を知らない。市としても反省しなければならないところだと思っています。

部活動の地域移行の問題も、外へ行くと「どうなっているんだ」とよく聞かれます。これも広報不足だと感じています。結果だけでなく、どういう方針でやっているのかのプロセスを市民に示せていない。CS も全く同じだと思いますので、公表すべきことは公表していく必要があると強く感じています。

働き方改革については、学校側の認識としてはいかがですか？

学校教育課長

CS が一つ増えることで働き方改革に逆行するのかというと、その逆で、地域の方に力を借りることで、教員が担っていたものを手伝っていただくため、決して働き方改革に逆行することはないです。広報が足りないという御意見は、その通りだと思います。

長田委員は朝日小学校で CS に入っていただいており、よく御存知ですので、学校との関わり等についてお聞きしたいです。

長田委員

私はあまり立ち位置を気にしておりません。全部一緒にやりましょうという気持ちでやっています。そうでないと色々なものが個別化してしまう。ただ、学校運営協議会としては、勉強だとか学習ではなく、夢創造事業のような方向で手伝いができるべきと考えています。

広報については、3年ぐらい前の総合教育会議で市長からアピールが足りないと言われたのを覚えています。私自身、なるべく発信するようにはしておりますが、具体的に言葉にするのが難しく、「地域の中に学校があるんだよ」という表現だけではなかなか伝わらないのが実情です。

教育長

CSは、学校運営協議会が学校運営方針を地域と共有し、地域学校協働本部が具体的な支援活動を実行する、両輪となって進められていく仕組みです。この仕組みはなかなか分かりにくいですが、地域の方々と学校の運営方針を共有し、地域で学校活動を支え、さらに地域コミュニティの再生にも寄与する前向きな取組です。

社会教育課長

地域側、コーディネーターの獲得や組織立ち上げの動きは、社会教育課の方で進めています。

市長

CSとは一言で言うとどこが主体の活動なのでしょうか？地域の人に関する事は社会教育課、学校に関する事は学校教育課であることは分かりましたが、実際の運営となつたときにはどこが主体となるのか。学校運営協議会は、一時期は学校に圧力をかける団体という面もありました。よほどコーディネーターがしっかり舵取りをしていかねば、うまくいかないような気がしています。一つの組織ではありませんから、対立するリスクもあり、スタートが肝心です。

私自身このような懸念を感じてはおりますが、CSで学校ごとに特徴ある取組を展開することで、御殿場市の学校教育が更に充実したものとなると思っています。

国の教育方針も変わっていくので、今後のCSがどのような形になっていくか分かりませんが、先生方の働き方改革という重大な課題は無視できません。この問題も同時に考えていかなければならぬと考えています。

教育長

CS は地域と一体となって子どもたちの教育環境を作るのが目的です。もう一つは、人口減少の中、地域コミュニティを再生し、学校が地域の中心となることです。教育も応援してもらうし、逆に地域の方々を結びつけて地域を再生していくという前向きなものですので、ぜひ CS に御協力をお願いしたいと思います。

市長

地域の人からは、やりがいを持ってやりたいという言葉が出てきます。御殿場市には自衛隊がある等、他の市町にはない特殊な資源があります。そういうところを御殿場市の特徴としてぜひ教育の場にも活かして欲しいと思います。

本日は、活発な御意見をいただきありがとうございました。それでは、この後の進行は課長にお願いしたいと思います。

5 閉会

教育総務課長

皆様、大変貴重な御意見をいただきありがとうございました。今回の総合教育会議を踏まえた上で、来年度以降の方向性を教育部全体で模索していきますので、よろしくお願いいいたします。

以上をもちまして、令和7年度第2回総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

午後3時00分閉会